

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 北野上七軒界わい地区

平成26年3月

京都府京都市

## 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	北野上七軒界隈い地区			面積	25ha										
交付期間	平成22年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	231.6 百万円	国費率	0.45												
<b>事業名</b>																			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業 基幹事業	道路(電線共同溝、情報板), 地域生活基盤施設(情報板), 高質空間形成施設(石畳風アスファルト舗装, 照明灯, 石碑)																	
		地域創造支援事業(上七軒歌舞練場修景整備事業), 事業活用調査(歩行者交通量調査, 地域住民満足度調査), まちづくり活動推進事業(ワークショップ開催)																	
	<b>事業名</b>			<b>削除/追加の理由</b>			<b>削除/追加による目標、指標、数値目標への影響</b>												
	当初計画から削除した事業 基幹事業	地域生活基盤施設(情報板)			道路事業への変更			-											
		提案事業																	
	新たに追加した事業 基幹事業	道路(情報板)			地域生活基盤施設からの変更			-											
		提案事業 まちづくり活動推進事業(パンフレット作成)			観光資源の賑わいを再生するとともに、成果指標である歩行者数の増加を図るために追加			上七軒界隈への歩行者数にも関連するが、他の事業による影響も大きいことから、指標及び目標数値は据え置く											
	交付期間の変更	当 初	平成22年度～平成24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし													
		変 更	平成22年度～平成25年度																
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	<b>指 標</b>		<b>従前値</b>		<b>目標値</b>		数 値	目標達成度	1年以内の達成見込み										
	指標1	上七軒通の歩行者数	人	1,250	H21	1,500													
						モニタリング	評価値	あり なし											
	指標2	地域住民の景観に対する満足度	%	20	H21	60	H25	95	○ なし										
	指標3	地域住民のワークショップ参加人数	名	10	H21	20	H25	20	○ なし										
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	<b>指 標</b>		<b>従前値</b>		<b>目標値</b>		数 値	目標達成度	1年以内の達成見込み										
	その他の数値指標1		単位	基準年度	目標年度	モニタリング													
	その他の数値指標2																		
	その他の数値指標3																		
4)定性的な効果発現状況	・本事業により、上七軒通の安全性、快適性が改善されたことや、街の景観、道路環境が改善されたことで、上七軒界隈いの歴史的な街並み保全に関する住民意識や愛着が高まる機会になった。 ・地域住民主導のワークショップで議論した内容を目に見える形で各事業に反映したことで、地域住民の上七軒界隈いの歴史的な街並み保全に関する意識を高めることができた。																		
5)実施過程の評価	<b>実施内容</b>			<b>実施状況</b>			<b>今後の対応方針等</b>												
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた														
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した														
	住民参加プロセス				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった														
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した														
	持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた														
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した														
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった															

## 様式2-2 地区の概要

北野上七軒界隈地区(京都府京都市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：無電柱化事業・石畳風アスファルト舗装・道路照明灯の設置等により、歴史的特性を活かした景観整備を行い、都市観光の活性化を図るとともに、地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを行う。	上七軒通りの歩行者数	単位：人	1,250	H21	1,500	H25	2,307	H25
目標1：電線類地化により、歴史特性を活かした景観整備を行い、交通安全性・歩行者の快適性の向上を図ると共に災害に強いまちづくりを行う。	地域住民の景観に対する満足度	単位：%	20	H21	60	H25	95	H25
目標2：道路の美化装（石畳風アスファルト舗装）、道路照明灯のグレードアップを図り、歴史特性を活かした景観整備を行う。	地域住民のワークショップ参加人数	単位：名	10	H21	20	H25	20	H25
目標3：地域住民が自発的に景観形成に取り組み、自らが地域特性にふさわしい居住空間を形成維持できる環境整備を行う。		単位：		H		H		H
目標4：観光客が安心して円滑にまちなかみ散策を楽しめる環境整備をすると共に観光資源の賑わいを再生する。		単位：		H		H		H



まちの課題の変化	電線類が地中化されたことに伴い、道路空間が広がったことで、歩行者にとって安全で快適な道路空間を形成した。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	快適で安心・安全のまちづくりを実現するため、良好な生活環境と景観整備された街並みを保全するために、官民一体となったまちづくりを推進する。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区的次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

## (1) 成果の評価

### 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(事業期間)	●		平成22年度～平成24年度	平成22年度～平成25年度	本体関連工事(電線管理者による電線類の入線、切替、抜柱)の完成が平成24年度になることがわかったため、平成24年度中に事業効果を確認することが困難となつたため

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	一般市道 翔鸞緯7号線(電線共同溝)	143	L=310m	143	L=310m	なし		●	
	一般市道 翔鸞緯7号線 他(情報板)			1	N=6基	地域生活基盤施設事業からの変更		●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	情報板	1	N=6基			道路事業への変更		●	
高質空間形成施設	石畳風アスファルト舗装	103	1式	53.4	1式	・事業完了に伴う清算変更 ・実施設計の結果、工事内容の変更 のため減額		●	
	照明灯	11	1式	7	1式	・事業完了に伴う清算変更 ・実施設計の結果、工事内容の変更 のため減額		●	
	石碑	5	1式	1.5	1式	・事業完了に伴う清算変更 ・実施設計の結果、工事内容の変更 のため減額		●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
パリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	目標値 (ウ)	目標年度	数値(エ)		目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度				あり	なし			
指標1	上七軒通の歩行者数	人	電線類を地中化し、道路修景整備を行った上七軒通において、平成25年11月時点の歩行者数を計測する。	-	-	1,250	H21	1,500	H25	モニタリング		
								事後評価	確定見込み	●	2,307	事後評価 ○
指標2	地域住民の景観に対する満足度	%	対象地区の全住民を対象にした景観に関するアンケート調査を実施し、「景観が良い」と回答した割合を算出する。	-	-	20	H21	60	H25	モニタリング		
								事後評価	確定見込み	●	95	事後評価 ○
指標3	地域住民のワークショップ参加人数	名	平成22年9月～平成24年3月に開催された地域住民ワークショップの参加人数を計測する。	-	-	10	H21	20	H25	モニタリング		
								事後評価	確定見込み	●	20	事後評価 ○
指標4								モニタリング			モニタリング	
								事後評価	確定見込み		事後評価	
指標5								モニタリング			モニタリング	
								事後評価	確定見込み		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	電線類を地中化し、道路修景整備の完了後に実施した歩行者数調査において、通過歩行者数が目標値を上回ったため、目標は達成したと判断した。	なし
指標2	整備後の住民アンケート調査において、住民の景観に対する満足度が目標値を満たしたため、目標は達成したと判断した。	なし
指標3	延べ5回開催された地域住民参加のワークショップの参加人数は目標値を満たしたため、目標は達成したと判断した。	なし
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のこという。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

**添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測**

指 標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準 年度	基準 年度					
その他の数値指標1						モニタリング			
						事後評価	確定 見込み		
その他の数値指標2						モニタリング			
						事後評価	確定 見込み		
その他の数値指標3						モニタリング			
						事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のこという。

**添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況**

- ・本事業により、安全性、快適性が改善し、街の景観、道路環境が改善されたことで、上七軒界わいの歴史的な街並みに関する住民意識や愛着が高まる機会になった。
- ・地域住民主導のワークショップで議論した内容を、目に見える形で各事業に反映したことで、地域住民の上七軒界わいの歴史的な街並みに関する意識を高めることができた。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		なし	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		なし	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i . 体制構築に向けた取組内容	ii . まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した	なし		
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
上七軒界わい検討委員会	関係課職員 地元住民関係者(ワークショップ委員)	平成25年12月24日(火)	道路環境整備課 (都市再生整備計画事業主管課)

#### 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標の種別	指標1	指標2	指標3	指標○	
		指標名	上七軒通の歩行者数	地域住民の景観に対する満足度	地域住民のワークショップ参加人数		
基幹事業	道路【電線共同溝】(一般市道 翔鸞緯7号線)	◎	上七軒界わいの歴史的な街並みを活かした景観整備事業は、京都最古の花街である上七軒界隈の歩行環境・景観的魅力を向上させ、観光客の増加など回遊性を高めることに貢献した。	◎	上七軒界わいの歴史的な街並みを活かした電線類の地中化や道路の修景整備は、歩行環境の向上、通りの景観的魅力の向上に貢献し、地域住民の景観に対する満足度向上につながった。	○	ワークショップで議論された内容が整備に反映されることで、より地域の財産としての愛着が高まった。
	地域生活基盤施設【情報版】	○		○			
	高質空間形成施設【石置風アスファルト舗装】	○		○			
	高質空間形成施設【照明灯】	○		○			
	高質空間形成施設【石碑】	○		○			
提案事業	地域創造支援事業【上七軒歌舞練場修景整備事業】	◎			地域住民主導のワークショップを行うことにより、地域住民のまちづくりに対する意欲が向上しつつあり、今後のまちづくり活動に関わるきっかけとなつた。		
	事業活用調査【歩行者交通量調査】	○					
	事業活用調査【地域住民満足度調査】	—					
	まちづくり活動推進事業【ワークショップ開催】	○					
	まちづくり活動推進事業【パンフレット作成】	○					
関連事業							

#### ※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- － : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	人通りも増え、近隣する北野天満宮などの観光客の回遊性が高まるなど、地域の賑わいが創出されつつあるため、今後も上七軒界隈を拠点にした、地域全体の活性化を目指していく。	景観整備された街並みを保全していくために、地域住民が中心になって、まちの美化活動などを積極的に行っていく。	地域住民に交流が生まれるとともに、良好な景観形成が図られたことから、今後もまちづくり活動を継続していく。	

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類									
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

××:事業が効果を発揮せず、

△:指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×:事業が効果を発揮せず、

△:指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△:数値目標が達成できなかつた中でも、

ある程度の効果をあげたと思われる。

-:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

明確なので、評価できない。

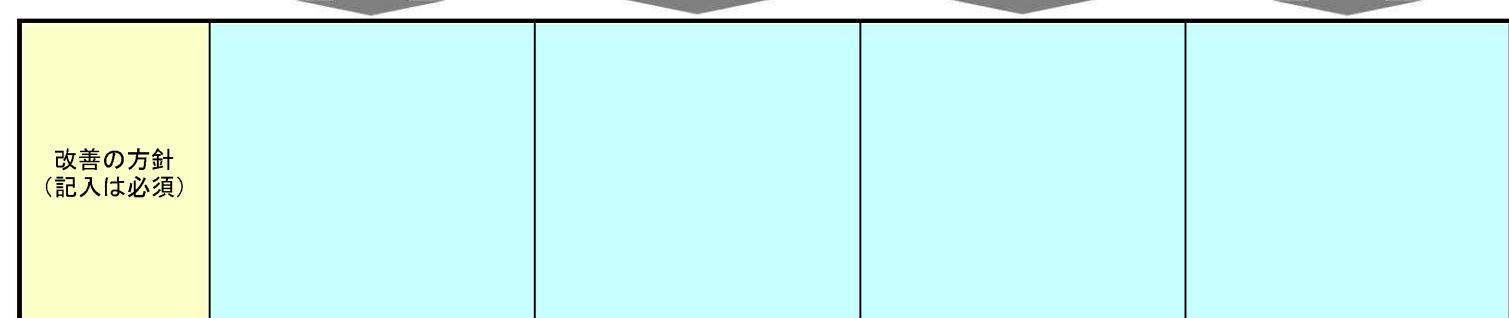
※要因の分類

分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。

分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。

分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。



#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
上七軒界隈い検討委員会	関係課職員 地元住民関係者(ワークショップ委員)	平成25年12月24日(火)	道路環境整備課 (都市再生整備計画事業主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
上七軒通は幅員が狭く歩道も設置されていないことから歩行者の安全確保が重要である	電線類が地中化されたことに伴い、道路空間が広がったことで、歩行者にとって安全で快適な道路空間を形成することができた。	電柱が撤去されたことで、自動車が走行しやすくなり、一部の利用者によるスピード超過が見られる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	安全で快適な道路空間の確保	道路の安全・快適性が向上し、景観も改善された上七軒界隈を維持していくため、地域が中心になったまちの美化活動などを行っていく。また、併せて、地域活性化を目的としたボランティア組織を設立し、持続可能な地域ネットワークの形成を目指す。	官民協働による美化活動、地域ボランティア組織の設立
	歴史的街並みの保全	歴史的街並みが残る上七軒界隈の景観を保全するため、景観法等による法規制や、地域まちづくり協定など、ソフト施策においても支援を行っていく。	行政支援による地域まちづくり協議会の設置・運営

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	通過交通のスピード抑制と歩行者の安全確保	新たなまちの課題である「自動車の速度超過」については、景観整備された事業であることを踏まえ、自動車利用者に対する車利用者への交通ルール順守を促していくなど、ソフト施策による検討を行っていく。	注意看板の設置、啓発活動等

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

快適で安心・安全のまちづくりを実現するため、良好な生活環境と景観整備された街並みを保全するために、官民一体となったまちづくりを推進する。

#### 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・**フォローアップの要否**に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・**従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込み**は添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年内の達成見込みの有無	
			年度	年度	年度	年度	●	○		△	○
指標1	上七軒通の歩行者数	人	1,250	H21	1,500	H25	確定 見込み	●	2,307	○	あり なし
指標2	地域住民の景観に対する満足度	%	20	H21	60	H25	確定 見込み	●	95	○	あり なし
指標3	地域住民のワークショップ参加人数	名	10	H21	20	H25	確定 見込み	●	20	○	あり なし
指標4				H		H	確定 見込み				あり なし
指標5				H		H	確定 見込み				あり なし

その他の数値指標1			H		確定			
					見込み			
その他の数値指標2			H		確定			
					見込み			
その他の数値指標3			H		確定			
					見込み			


## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	ワークショップで議論された内容が整備に反映されることで、より地域の財産としての愛着が高まった。	当初から地域住民の意見を広く聞き取り、計画内容の充実や質の向上を図ることが重要である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

## 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区的名称(当該地区の次期計画も含む)

本市においては、「小川通周辺地区」が事業中であり、当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

## (5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	平成26年2月3日～2月17日	平成26年2月3日～2月17日	担当課への郵便, FAX, Eメールなど	建設局道路環境整備課 (都市再生整備計画事業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課で閲覧	平成26年2月3日～2月17日	平成26年2月3日～2月17日		

住民の意見	意見なし
-------	------

## (6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	八木 康夫 関西学院大学教授 関西学院大学総合政策学部都市政策学科 推薦委員	平成26年2月25日	道路環境整備課 (都市再生整備計画事業主管課)	独自に設置	独自に設置
他の委員					
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし			
	成果の評価	・評価結果については了承された。 ・特に、指標2「地域住民の景観に対する満足度調査」については、評価値が目標値を大きく上回っており、高く評価された。			
	実施過程の評価	・特になし			
	効果発現要因の整理	・内容は妥当であると確認された。			
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし			
	その他	・特になし			
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。			
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・新たなまちの課題として「自動車の速度超過」の意見があるが、景観整備された場所であるのでソフト施策によるアプローチが望ましい。 ・「官民協働による美化活動」を想定しているが、安易に美化活動のみを義務化していくのではなく、将来にわたって地域全体が活性化するよう、上七軒界わいのお茶屋街や匠会、地域住民、近隣の大学生などから構成されるボランティア組織を設立し、持続可能な地域ネットワークを形成することが望ましい。			
	フォローアップ	・特になし			
	その他	・特になし			
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。			
その他		・特になし			

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--